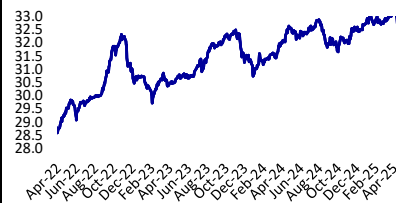
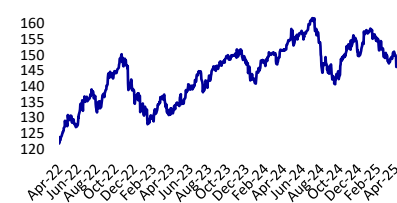


市場動向

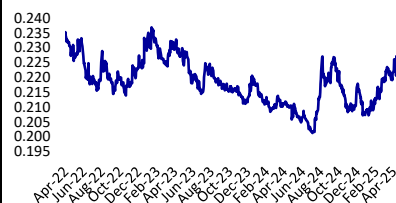
■USD/TWD



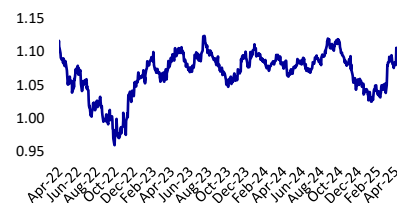
■USD/JPY



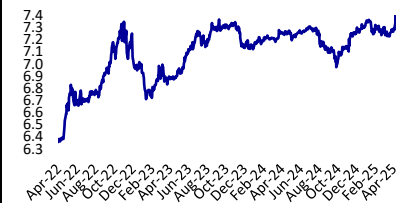
■JPY/TWD



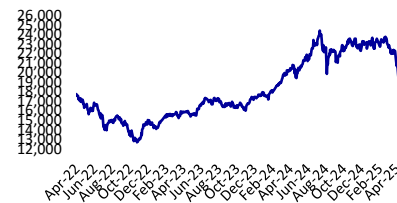
■EUR/USD



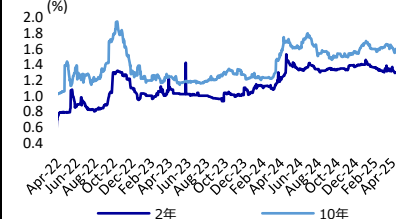
■USD/CNH



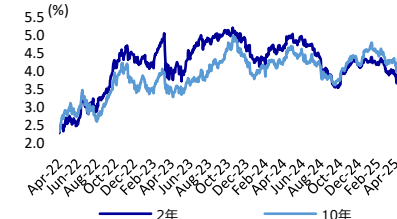
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初4/7は33.090でオープン後、米国による台湾からの輸入品への相互関税上乗せを受け、台湾経済への悪影響が懸念され、台湾株がストップ安となり、リスクオフのドル買いで一時的に33.230まで上昇。4/8は、台湾株は引き続き軟調に推移するものの、台湾当局による調整や国内投資家による海外資産の換金売りがドルの売り圧力となり、一時32.954まで下落。4/9、米国と各国との貿易交渉が一向に進まない中、台湾株の売り圧力も継続、ドルも一時33.100まで上昇。4/10は、関税懸念緩和を受け、台湾ドル買い優勢の展開、ドルは一時32.792まで下落。しかし、輸入企業や台湾当局のドル買いが入り、ドルの下落幅も限定的に留まった。4/11は、グローバルにドル安が進む中、台湾ドル買い優勢の展開、ドルは一時32.792まで下落。最終的には前週比1.16%ドル安台湾ドル高の32.705で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は281.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初4/7は147.20でオープン後、アジア株を中心にリスク資産の急落が続く中、147円前後から145円前後まで低下したものの、欧米時間に入り、米金利の上昇を受けて一時149円前後まで上昇。4/8は、米中貿易摩擦の激化に対する懸念が高まり、人民元安圧力の加速が投資家の心理を悪化させ、リスクオフでドル円は一時145円台後半まで下落。4/9は、相互関税懸念の高まりで一時的に144円前後まで低下していたが、トランプ米大統領が米国に報復措置を講じていない国・地域に対して相互関税を90日間停止すると発表し、関税懸念緩和で、一時148円前後まで急上昇した。4/10は、関税懸念は緩和されたものの、米中貿易戦争激化でマーケットは引き続き不安定となり、株式市場の反落に伴い、ドル円は144円前後まで低下、前日の上昇分を全て吐き出した格好。4/11は、米中対立激化による経済の先行き不透明感からドル売りが続き、ドルは一時142.05まで売られた。最終的には前週比2.28%ドル安円高の143.54で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.000-32.600

今週のドル/台湾ドルは上値の重い推移を見込む。貿易摩擦激化への懸念から、ドルの上値は抑えられやすいだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：139.50-147.50

今週のドル/円は上下双方向に相場が急変するリスクがあり、波乱含みの展開が想定される。米関税をきっかけとするドル売りが続くかが焦点で、米中貿易戦争の行方次第となりそうだ。

今週の予定

4/14 (MON)	日2月鉱工業生産
4/15 (TUE)	米3月輸入/輸出物価指数、米4月ニューヨーク連銀製造業景気指数
4/16 (WED)	米3月小売売上高、米3月鉱工業生産
4/17 (THU)	欧州中央銀行(ECB)政策金利、米4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数
4/18 (FRI)	日3月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。